

「介護ビジネスの未来を創る」
週刊高齢者住宅新聞
 Elderly Press Newspaper

2017年(平成29年)

2月1日

第432号 (毎週水曜日発行)

(株) 高齢者住宅新聞社

〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15

☎03-3543-6852 (編集部)

発行人 西岡一紀

年間購読料 22,680円(送料込・税込)

ホームページ

http://koueisha-jutaku.com

会員4000事業所目指す

リハデイ協「日本デイサービス協会」に

一般社団法人リハビリ・デイサービス協会(東京都港区)は、昨年末、名称を一般社団法人日本デイサービス協会に変更した。名称変更の狙いや今後の展開などについて、引き続き理事長を務める小川義行氏(イー・ライフ・グループ社長)に話を聞いた。



小川義行 理事長

リハビリ特化型 以外にも会員対象

名称変更の理由

小川 以前の名称は「リハビリデイサービス協会」ではなく「リハデイ協」でした。これには「リハビリはデイにとって重要な取り組みのひとつ。リハビリ特化型か否かに関わらず、デイのサービス品質向上に向け、しっかり取り組んでいる事業所で繋がる」というメッセージが込められていました。しかし「リハビリ特化型デイの団体」というイメージ

を持たれてしまっていた。設立当初からの想いを、よりわかりやすくするのが狙いです。

名称以外に変更した点は、

小川 理事体制を拡充し、フランチャイズなどでデイを多店舗展開する事業者数社の社長に新たに加わってもらいました。また、介護事業者の年会費は無料としました。デイ事業者は中小零細企業が多く、費用面の問題から介護業界団体への加入が難しいケースもありましたので、それを払拭するのが狙いです。

昨年12月現在で、会員法人89・事業所数1204、賛助会員9法人ですが、まずはデイ事業所総数の1割に相当する、約4000事業所



業所の加入を目指しています。今後の活動方針は、

Code for JAP AN.

トピックス

死を様々な視点から分析し、語り、「幸せな死へのサービス」の創造を目指すイベント「デス・ハッカソン」が1月19日から21日まで都内で開催された。主催は博報堂と



▲様々な「死のプロ」がレクチャー

初開催となる今回のテーマは「介護の景色を変える」。当日は、まず、介護コンサルタントの西村栄一氏(ヘルプス・アンド・カンパニー代表)や納棺士の木村光希氏(おくりびとアカデミー代表)のほか、僧侶、民族学者、元麻酔科医など死に関わることの多い人が、それぞれの立場から死や死生感について講義。その後は参加者が「自分にとって印象的な死は何だったか」「未来の老後のあり

者の意見をしっかりと届けていきます。2月14日には、混合介護に関する解釈が自治体により異なるため、事業者が混乱しているという現状を訴え、混合介護をもっと使いやすくするように求める提言を行う予定です。

2018年の介護報酬改定の方向性についてはどの様に考え、国には何を訴えていきますか。

小川 厳しい社会保障財政を考えると、この先、介護報酬は引き下げられるのは仕方無いものと考えています。その代わり、人員要件や利用者1人当たりの面積要件などを緩和し、引き下げられた報酬でも安定した事業を行えるようにしてもらえればと思います。

小川 今年度は「軽度者対応」に焦点を絞ります。具体的には①他団体とも連携し「介護保険制度の枠組みを守る」ことに対する署名を集める②自立支援介護が、利用者の状態改善、さらには介護保険財政改善に寄与するエビデンスデータを取り

「軽度者対応」 短期的な活動内容

「連絡会」東京全体で 特定協 2月15日開催



国政貴美子 代表理事

一般社団法人全国特定施設事業者協議会(以下・特定協/東京都港区)は2月15日、初の「東京都介護付きホーム(特定施設連絡会)」を行う。

会場は新宿区のTRPカンファレンスセンター。定員100人。非会員でも参加可能(無料)。受付は2月10日まで。

その準備に関する様々な情報を掲載したポータルサイトと、その前段階として世界各地の死や葬儀に関する話題を集めた書籍(図鑑)の刊行③、いわゆる「おふくろの味」を事前にフリードライ化し、本人の死後も家族がその味を楽しめるようにした食品缶詰、の3点。投票の結果、③の「かぞくかん」が優勝した。

主催者では、優勝アイデアについてはクラウドファンディングなどの手法を用いて、実際の商品・サービス化を目指す考えだ。

“幸せな死”サービス化

多職種が意見交換

方(一)などのテーマでグループワークを行い、死や老後に向けた理想的な商品やサービスのアイデアを練った。

参加者全員がアイデアを投票により3つに絞り、各アイデアに賛同するメンバーでチームを作った。アイデアの実際の商品・サービス化に向けたデイスカッションをチームで行った。

最終的にプレゼンテーションされたのは①スマートフォンなどを利用して気軽に



▲アイデアに投票

個室型高齢者施設向け 見守り・生活記録システム モリト

転倒防止

座地で通知・離床で通知
リアルタイムに状況表示

スタッフの負担軽減

見守りを効率化

〇〇さんの通知だけ、私が対応します。通知一時停止ボタン

〇〇さんの座地の通知が止まったわ。対応済みね。

熱中症&カゼ予防

生活記録を表示

節電に!

室温管理と節電

PC・タブレットで
◆居室の室温・湿度がわかる
◆エアコンを操作できる
◆室温が、設定範囲を外れると通知

設置かんたん

詳しい資料をご用意しております。お気軽にお問い合わせください。

開発・評価はグループホームで